

台場シャトルバス「お台場レインボーバス」の運行状況について

お台場レインボーバスは、平成24年度から台場シャトルバス運営協議会が、5年目までに収支率100%にすることを条件に運行を開始しましたが、その条件を達成できなかったため、当運営協議会は平成28年度末で事業から撤退し、解散しました。

平成29年度からは、令和3年度までの5年間の黒字化を目指して、区が1億円を上限に運行経費を補助するスキームで運行してきました。

しかし、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、利用者が大幅に減少し、期限までに黒字化が達成できなかったため、目標期限を令和6年度まで延長し、運行事業を継続しています。

1 運行状況

(1) 利用者数

令和4年度の利用者数は685,967,967人で、令和3年度と比較して、118,351人増加しました。

(単位：人)

年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
利用者数	685,967 (118,351)	567,616 (86,678)	480,938 (▲327,786)	808,724 -

※ () 内は前年度からの増減数

(2) 収支率

令和4年度の収支率は78.4%で、令和3年度から10.6ポイント増加しました。収入は利用者数増加に伴う運賃収入の増加により、令和3年度と比較して、約2,400万円増加しました。支出は、昨今の社会情勢の影響から人件費や燃料費等が高騰し、令和3年度と比較して、約740万円増加しました。

(単位：千円)

年度	収入			支出	収支	補助金	収支率 ※1
	運賃収入	広告収入等	計				
令和元年度	152,058	9,933	161,991	182,092	▲20,101	20,101	89.0%
令和2年度	91,317	8,604	99,921	162,987	▲63,066	63,066	61.3%
令和3年度	108,862	7,002	115,864	170,897	▲55,033	55,033	67.8%
令和4年度	132,268	7,563	139,831	178,291	▲38,460	38,460 ^{※2}	78.4%

※1 収支率(%)：収入÷支出

※2 原油価格の高騰による燃料費の増加補填分(1,901千円)を含む

(3) 運行経費補助金

令和4年度から令和6年度までの3年間で5千万円を上限として、運行経費と運行収入の差額を補助しています。

令和4年度の補助金額の合計は、38,460,000円です。そのうち、原油価格の高騰による燃料費の増加分(令和3年度実績差額分)である1,901,000円については、補助上限額とは別に交付しておりますが、その他物価高騰等の影響もあり、計画値を上回る36,559,000円を補助上限額の枠内として交付しました。

(単位：千円)

補助対象 年度	運行経費補助金額			
	計画値 (赤字分)	実績		
		上限(5千万円) 枠内	燃料費 増加補填分	合計
令和4年度	29,830	36,559	1,901	38,460
令和5年度	13,423	—	—	—
令和6年度	3,270	—	—	—
合計	46,523	36,559	1,901	38,460
残額	3,477	13,441		

2 令和4年度の実績

運行10周年を記念し、記念ロゴの作成、記念セレモニーの開催、地域や区主催イベントへの出展、区有施設での展示等の認知度向上策に取り組みました。

また、JR東日本と連携し、支払方法の実証実験として導入しているキャッシュレス決済アプリ「RingoPass」が、令和5年1月からモバイルSuicaとの連携を開始するとともに、お台場レインボーバスの利用回数に応じて「JRE POINT」をプレゼントするキャンペーンを実施する等の利用促進を図りました。

3 令和5年度の実績

令和5年4月に、台場地域での愛着醸成等を目的にお台場学園港陽小学校の新1年生を対象に「お台場レインボーバスの乗り方教室」を開催しました。

また、ホテルと連携した乗車券付き宿泊プランの販売等の利用促進に向けた取組に加え、令和5年8月に実施した台場地域住民へのアンケートや、今後実施予定の企業ヒアリング等を通じて、台場地域の要望や状況を把握し、みなとパーク芝浦近傍等への停留所新設、交通系ICカードに代わる新たなキャッシュレス決済としてクレジットカードのタッチ決済等の導入のほか、乗換利便性の向上や企業との連携、車内広告の掲出による収入確保等の運行改善策の検討を進めています。

今後も運行事業者とともに、台場地域住民、企業と連携した認知度向上策や利用促進策に取り組み、自主運行化に向け、収支率の改善を図ります。